

令和 2 年度 施策評価表

第 1 章『人と人との絆を紡ぐまち』										
まちづくりの目標	誰もが安心して暮らせるよう、市民一人ひとりがお互いにいたわり学び合いながら絆を紡ぎ、地域で見守り支え合うまちをめざします。									
分野別計画・指針	所沢市地域防災計画、国民保護に関する所沢市計画、第10次所沢市交通安全計画、第4次所沢市障害者支援計画、第7期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画、第2次所沢市地域福祉計画、第2次所沢市教育振興基本計画、所沢市生涯学習推進指針、第3次所沢市子どもの読書活動推進計画、第2次所沢市図書館ビジョン									
第1節	地域づくり									
関係所属	地域づくり推進課、各まちづくりセンター									
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人				満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度			
「地域づくり」 所沢市は地域活動が盛んに行われている				673	32.9%	176	8.6%			
評価指標の達成状況	指標名			単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値	
	地域づくりに関する施策の満足度			%	-	55	33	×	62.5	
事業目標の達成状況										
基本方針		事業目標			単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
1-1-1	地域コミュニティの充実	地域づくり支援事業への地域住民の参加人数			人	106,959	111,000	130,995	○	116,000
1-1-2	地域コミュニティの支援	自治会等への加入世帯数			件	97,697	97,900	98,026	○	98,400
1-1-3	市民活動の促進	市民活動支援センターの利用者数			人	3,490	3,520	3,201	×	3,670
節の基本方針への取り組み状況										
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各地域づくり協議会の活動に対し、地域づくり協議会活動支援交付金を交付し、財政的支援を実施した。 ○所沢地区において、令和元年6月29日に地域づくり協議会が設立され、地域ネットワークの推進が図れた。 ○小手指まちづくりセンターにおいて、慢性的な駐車場不足を解消し、施設の利便性の向上等を図るため、第2駐車場の用地測量、不動産鑑定評価及び用地取得を実施した。 ○各まちづくりセンターに血圧計やウォーターサーバーを設置するとともに、保健センターと連携した健康セミナーの開催など、健康の推進を行い、まちづくりセンターの機能の充実を図った。 ○関係部署(福祉部・健康推進部・教育総務部)と所沢市社会福祉協議会と連携のもと、各地域づくり協議会の情報交換会を開催し、協議会活動の促進を支援した。 ○自治会・町内会加入パンフレットによる加入促進、広報ところざわでの活動周知、職員ボランティア「自治会・町内会応援団」による活動支援、集会所の修繕や維持管理の費用助成による活動拠点の整備を行った。 ○団体の活動に役立つチラシの作り方や、市民活動に関心のある市民を対象にした地域デビュー、また、市民活動団体と自治会・町内会との協働といったこと等をテーマに、各種の講座を開催した。 ○市民活動団体の活動紹介等を行っている市民活動支援センターまつりについて、実行委員会を組織し市との共催で開催し、団体間の連携づくり、及び団体と市との協働に取り組んだ。 <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民の半数以上が地域づくりに関する施策に満足することを評価指標として掲げたが、市民意識調査の結果は目標値と比較して大きな開きがあった。新たな設問であったため設問の参考となる考え方の事例の示し方が目標と合致していたか検証する。また、地域住民がより効果を実感できる施策を検討していく。 ○2月27日、28日に開催した市民活動見本市は、来場者が約330人で前年の680人から半分以下であった。これは、新型コロナウイルスの影響により、市民が外出を控えたためと推測する。また、市民活動支援講座については、申込者が少なかった講座もあり、テーマ選定に工夫が必要であった。 										

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 地域活動の拠点施設であるまちづくりセンターを効果的に運営するとともに、市民活動支援センター等と連携しながら地域づくりに必要な人材の発掘・育成を推進し、地域と行政が相互に連携する体制を整備する。
- 市民活動支援システム「トコロんWeb」については、操作研修会を行う等登録団体に積極的な利用を促すとともに、未登録団体には登録を働きかけて利用拡大に努める。
- 市民活動見本市の開催等を通じて、生涯学習推進センターや社会福祉協議会と連携し、市民活動に関する情報提供を行っていく。
- 市民活動団体（テーマ型コミュニティ）と、自治会・町内会（地縁型コミュニティ）といった団体の、相互の連携のきっかけになるような事業を実施する。

◆前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 地域づくりに関する施策の満足度向上のため、基本方針に沿った取り組みを地道に進め、市民に寄り添った施策を展開していく。
- 市ホームページ等により、市民活動支援センターの利用について周知をしていくとともに、事業実施後のアンケート調査等により市民ニーズの把握に努め、より効果的な事業運営を行っていく。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	レ 17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R2.7.28	記入者職氏名	市民部次長 田中 政美
-----	---------	--------	-------------

第2節	地域福祉								
関係所属	地域福祉センター、生活福祉課								
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度			
「地域福祉」 所沢市は地域の課題を地域で解決できる環境にある			397	19.4%	188	9.2%			
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値	
	所沢市地域福祉計画に掲げた取り組みを測る指標の達成率		%	87	90	85.3	×	100	
事業目標の達成状況									
基本方針		事業目標		単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
1-2-1	地域福祉のコミュニティづくり	子どもと福祉の未来館利用者数(地域福祉センター利用者数)		人	67,544	70,000	71,569	○	80,000
1-2-2	身近な地域に広がるネットワークづくり	民生委員・児童委員の充足率		%	96.8	100	96.2	×	100
1-2-3	安心・安全に地域で生活できる環境づくり	生活困窮者自立相談支援事業の新規相談者数		人	820	820	1,119	○	810
節の基本方針への取り組み状況									
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○「第3次地域福祉計画策定に係る市民意識調査」を実施し、一般市民や中学生・高校生から計1,996件の回答(回収率39.9%)があり、計画策定に係る基礎資料をまとめた。</p> <p>○「子どもと福祉の未来館」について、利用者の利便性や安全性に配慮した施設整備・管理運営を行い、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置として3月は体育館を閉館したが、利用者数は年間目標120,000人に対し、179,696人となった。また、「福祉の相談窓口」の相談件数は9,494件と、対前年度比1,042件増となった。また、感染症の影響により、年度末から「福祉の相談窓口」の生活困窮相談等が急増している。</p> <p>○民生委員・児童委員について、まちづくりセンターや各地区推薦会等との連携により改選事務を進め、令和元年12月の一斉改選で473人を委嘱した。また、充足率の向上を図るため、民生委員・児童委員に対するアンケート調査を実施した。</p> <p>○「成年後見制度推進検討委員会」を組織し、利用促進計画や中核機関の設置について方向性等を審議した。また、成年後見制度の推進に向けて、相談会等を実施するとともに、市民後見人候補者の育成を行った。なお、成年後見制度における市長の審判請求について、申立23件、報酬助成26件を行った。</p> <p>○生活困窮者に対して様々な制度を活用した相談支援を実施し、所沢市社会福祉協議会と連携しながら生活困窮者自立促進支援事業を実施した。</p> <p>○生活保護制度を適正に実施し、困窮家庭の生活を支援した。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○「所沢市地域福祉計画に掲げた取り組みを測る指標の達成率」は、計画に掲げる26の指標のそれぞれの達成率の平均により算定している。指標「保健センターとの連携による生活相談・健康相談」は、目標2回のところ実績1回で達成率50%となっており、これら一部の低い値の影響により平均値が下がってしまったものと思われる。なお、達成率100%が8項目、達成率90%以上が12項目あり、16項目の指標で前年度より達成率が上昇している。</p> <p>○民生委員・児童委員の充足率は令和元年12月に行なわれた一斉改選により、市全体で19名の欠員、特に並木地区で10名の欠員が生じたため、事業目標が未達となった。充足率は一斉改選直後に下がり、以後3ヶ月毎の欠員補充により、徐々に上昇する傾向にあるが、全国的に担い手不足が生じている状況にある。前年度、委員対象に実施したアンケート調査を分析し、委員の役割や活動等の周知啓発を行い、欠員解消に向け、担い手の確保に努めていく。</p>									
今後の方向性									
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○「子どもと福祉の未来館」について、「新しい生活様式」に即した施設のガイドラインを定め、感染症対策に留意した管理運営を行う。また、利用者要望等を踏まえた施設設備の充実にも努め、地域福祉の拠点として、子どもや高齢者、障害者等の交流できる機会を積極的に提供する。</p> <p>○「第3次地域福祉計画」について、社会・経済情勢の変化、これまでの計画の実績、市民意識調査の結果や地域課題の掘り起しを踏まえて策定する。また、社会福祉協議会や民生委員・児童委員など関係者・関係機関による地域福祉のネットワークづくりに努めるとともに、庁内横断的な推進体制の構築を図る。</p> <p>○「成年後見制度利用促進計画」について、「成年後見制度推進検討委員会」の意見を踏まえて内容をまとめ、「第3次地域福祉計画」に内包する。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○「所沢市地域福祉計画に掲げた取り組みを測る指標の達成率」は、計画に掲げる26の指標の達成率の平均により算定しているため、一部の指標の低い値により平均値が大きく影響を受けてしまうことになる。今年度、第3次計画を策定することから適切な進行管理方法についても検討する。</p> <p>○民生委員・児童委員の活動環境の整備として、委員対象に実施したアンケート調査の調査結果を分析するとともに、委員の役割や活動等の周知啓発により、欠員解消に向けた担い手の確保に努めていく。</p>									

SDGsへの貢献			
レ	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
レ	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R2.7.28	記入者職氏名	福祉部次長 並木 和人 福祉部生活福祉担当参事 荻野 亨

第3節	障害者福祉
関係所属	障害福祉課、健康管理課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「障害者福祉」 所沢市は障害者が地域の中で暮らしやすいまちだ	403	19.7%	226	11.1%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
	障害福祉サービスの利用率	%	80.5	85	79.0	×	85

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
1-3-1	差別解消と権利擁護の推進	「所沢市障害のある人もない人も共に生きる社会づくり条例」等の出前講座開催数	回	-	5	14	○	5
1-3-2	社会参加の促進と協働の推進	障害者週間記念事業来場者数	人/日	361	550	332	×	550
1-3-3	自立した生活支援の充実	グループホーム整備数	人分	131	154	219	○	214
1-3-4	雇用・就労の促進	ところざわ就労支援センター登録者の就職者数	人	512	547	631	○	637

節の基本方針への取り組み状況

◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
 ○条例を周知障害者への理解を深めるため、出前講座を16回、586名に実施した。
 ○社会的障壁の除去推進事業補助金を積極的に周知し、障壁除去に取り組む店舗19店舗に対し補助金を交付した。
 ○グループホームの整備費や運営費に対し補助金を交付し、市内のグループホームの整備促進を図った。
 ○重篤な精神障害者を対象とした「精神障害者アウトリーチ事業」、精神障害者本人と家族を対象とした「緊急一時保護事業」を実施し、精神障害者の地域での生活を支援した。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 ○利用率が低いサービスである「短期入所」は、障害者の家族に不測の事態が起きた場合に備えて支給決定を受けていることがほとんどであり、サービス利用の事態に至らず、目標値を下回ったものと推察する。
 ○「障害者週間記念事業来館者数」は、週間中の悪天候もあって未達成となったものである。ただし、12月1日に所沢市こどもと福祉の未来館で開催した「障害者週間記念イベント」は昨年度より参加者が増加している。

今後の方向性

◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
 ○「所沢市障害のある人もない人も共に生きる社会づくり条例」を推進するため、条例や社会的障壁除去補助金の周知啓発に努め、条例の体現に向けた取り組みを関係部署や障害者団体との協議により活動の方針を決定する。
 ○本市の障害者施策の推進を図るため、障害のある人が引き続き地域で安心して自立した生活を送れるよう、市民や事業者へのアンケート調査、パブリックコメント、関係機関等の意見を踏まえながら「第5次所沢市障害者支援計画」を策定を進める。
 ○引き続き「精神障害者アウトリーチ事業」等を実施し、精神障害者が住み慣れた地域で生活を送ることができるよう支援する。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容
 ○平時に「短期入所」を利用することは、何時か訪れる親亡き後の単身生活について障害者自身にイメージさせる側面があり、自立を促す一助となることから、障害者本人や家族に丁寧な説明を行い、その利用促進に努めていく。
 ○「障害者週間記念事業イベント」を関係機関と協働で開催し、地域住民への啓発や広報活動の充実を図り、来場者数の増加に努める。

SDGsへの貢献		
1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も		17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう		

評価日	R2.7.28	記入者職氏名	福祉部次長 並木 和人 健康推進部保健センター長 越智 三奈子
-----	---------	--------	------------------------------------

第4節	高齢者福祉
関係所属	高齢者支援課、介護保険課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「高齢者福祉」 所沢市は高齢者がいきいきと安心して暮らせるまちだ	521	25.5%	479	23.4%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
	地域で活動する元気な高齢者数	人	344,528	347,000	299,396	×	352,000

基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
1-4-1	自立した生活を継続するための取り組みの推進	介護予防に資する住民主体の通いの場への65歳以上の参加者の把握数	人	4,279	4,800	7,102	○	6,300
1-4-2	住み慣れた自宅や地域で暮らし続けるための	認知症サポーター養成者数	人	18,349	23,000	22,518	×	35,500
1-4-3	地域の課題を解決するための体制づくり	地域における社会資源の数	個	284	312	796	○	382
1-4-4	介護保険制度の安定的な運営	ケアプラン点検実施事業所数	箇所	4	5	7	○	5

節の基本方針への取り組み状況

◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り

- 老人福祉センター・憩の家において、年間を通して自主事業や教養講座等を実施した。
- 高齢者大学、高齢者囲碁将棋大会や高齢者スポーツ大会等を実施し高齢者の外出・交流の機会を設け、生きがいのある生活や介護予防に寄与するよう努めた。
- 住民主体の介護予防活動の育成・支援として地域の通いの場の充実を図った。特に「トころん元気百歳体操」はトコフィット(トころん元気百歳体操のサポーター)を72名養成し、地域のリハビリ専門職と協働することで、63団体の活動を支援した。
- 認知症の方とその家族、地域住民、専門職が集い、認知症の方を支えるつながりを支援し、本人、家族、支援する方が相談できる場としての「認知症カフェ」を新たに2箇所開設し、合計17箇所となった。
- 高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくため、引き続き「生活支援コーディネーター」を配置し、地域ニーズや地域資源、地域の抱える課題の把握を行うとともに、解決策の検討を行う体制の構築を図った。
- 介護保険制度の健全運営を行うため、介護保険料滞納者に対して電話や文書催告、戸別訪問を行い収納率の向上に努めた。
- 認定調査票チェック、ケアプラン点検、住宅改修等の点検、医療情報との突合・縦覧点検、介護給付費通知などの介護給付適正化事業を実施したほか、頻回な訪問介護のケアプランに係る検証作業を行った。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析

- 老人福祉センター・憩の家の利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による3月からの施設休館により、前年と比較し利用者が減少した。
- 認知症サポーター養成者数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月以降、認知症サポーター養成講座の開催を中止としたため目標数に達しなかった。

今後の方向性

◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 高齢者の外出、交流の機会を設け、生きがいのある生活や介護予防に寄与できるよう引き続き支援する。
- 高齢者が住み慣れた地域でできる限り自立した生活を送ることができるよう、地域包括ケアシステムの構築を引き続き行うとともに、介護予防、重度化防止に向けた取り組みや社会参加、地域活動を通じたいきがいつくりのための取組をさらに推進していく。
- 認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていけることができるよう、地域全体で認知症について正しく理解し、認知症の方を地域で見守り、支え合う地域づくりを引き続き推進していく。
- 地域ニーズや地域資源、地域の抱える課題の把握を行うとともに解決策の検討を行う体制の充実を図る。
- 介護保険制度の健全な運営のため、引き続き介護保険料収納率の向上や介護給付費適正化事業を進める。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 老人福祉センター・憩の家については、感染防止対策を講じ多くの高齢者が安心して利用できる環境づくりに努める。その上で、高齢者のニーズを踏まえた自主事業や教養講座等を企画し、利用者の増加を図る。
- 感染防止対策を講じ、規模の縮小などの工夫を行った上で、みんなのカフェや認知症サポーター養成講座を可能な限り開催し、認知症サポーター養成者数の増加を図る。

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R2.7.28	記入者職氏名	福祉部次長 並木 和人 福祉部介護保険担当参事 岸 克実

第5節	生涯学習・社会教育								
関係所属	社会教育課、生涯学習推進センター、所沢図書館								
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度			
「生涯学習・社会教育」 所沢市が提供する学習機会(講座や体験活動等)は充実している			479	23.4%	155	7.6%			
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値	
	生涯学習・社会教育に関する施策の満足度		%	-	20	23.4	○	25	
事業目標の達成状況									
基本方針		事業目標		単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
1-5-1	市民の学びと学び合いの支援	行政各部署の生涯学習関連事業数		件	110	115	122	○	140
1-5-2	学びの成果の活用	生涯学習ボランティア人材バンクの登録件数		件	117	125	132	○	150
1-5-3	家庭・地域の教育力の向上	家庭教育学級生数		人	3,003	現状値以上	3,016	○	現状値以上
1-5-4	公民館機能の充実	市民等と協働で企画実施した事業の割合		%	58.8	60	63.1	○	65
1-5-5	図書館機能の充実	図書館の蔵書数		冊・点	967,022	990,000	986,932	×	1,045,000
1-5-5	図書館機能の充実	レファレンス登録件数		件	1,217	1,265	902	×	1,394
1-5-6	読書活動の推進	子ども1人あたりの児童書数		冊・点	5.8	6.0	6.1	○	6.5
節の基本方針への取り組み状況									
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭における教育力向上のため家庭教育学級を開設し、保護者の学習の場を設けるとともに自主的な学習活動を支援した。 ○市民活動支援センターと連携し、市役所ロビーで「人材バンクフェア」を開催し、人材バンク制度を市民に周知することができた。 ○市民の課題解決に役立つ質の高い資料・情報源を収集するため、49回の検討会議を開催し、様々な分野の図書館の資料選定を行った。 ○子どもの読書活動推進に向けた連絡会を年3回開催し、学校等関係機関との連携を図りながら、様々な取り組みを実践した。 <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書館の蔵書数については、積極的に除籍作業を進めたため、蔵書数の伸びが鈍化したものの、おおむね目標には達しているものと考えている。 ○レファレンス登録件数については、本館がエレベーター工事に伴い一時休館だったこと、新型コロナウイルス感染防止対策のため、全館でサービスの一部休止をおこなったことなどから目標値に達しなかったと考えられる。 									
今後の方向性									
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭における教育力向上のため、今後も家庭教育学級を開設して保護者の学習の場を設け、その学習活動を支援していく。 ○市民が主体的に学び、その成果が活用できるように学習事業の実施や情報提供をしていく。 ○生涯学習情報紙「翔びたつひろば」等の媒体を介して、人材バンク制度の活用をPRしていく。 ○市民の課題解決に役立つ質の高い資料・情報源の収集・提供を継続して行い、地域の情報拠点として役立つ図書館機能の充実を図る。 ○図書館分館の運営状況について、安定した良質な運営が保たれるよう、定期的なモニタリングを継続していく。 <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書館の蔵書数については、「所沢市立図書館資料収集方針」に基づき、機能を十分に発揮できる種類と量を収集するため、引き続き予算措置していくとともに、郷土資料や寄贈本の受け入れを積極的に進めていく。 ○レファレンスについては、休館時においても電話やWebで受け付けていることをPRするとともに、担当職員の確保・育成に努め、利用者増を目指していく。 									

SDGsへの貢献			
レ	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
レ	2 飢餓をゼロに		11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
レ	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
レ	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R2.7.28	記入者職氏名	教育総務部次長 市川 雅美

第6節	危機管理・防災
関係所属	危機管理課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「危機管理・防災」 所沢市の防災対策に満足している	495	24.2%	336	16.4%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
	総合防災訓練の参加者数		人	31,100	32,100	40,751	○

基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
1-6-1	地域防災体制の強化	消防団員定員充足率	%	99.1	100	97.5	×	100
1-6-2	災害時初動体制の構築	ところざわほっとメール(防災カテゴリ)の利用登録者数	人	16,671	17,000	20,713	○	17,000
1-6-3	災害応急対策の充実	防災資機材の点検率	%	100	100	100	○	100
1-6-4	非常時の体制の強化	災害時応援協定の締結数	協定	68	74	77	○	89

節の基本方針への取り組み状況	
◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り	○総合防災訓練には、前年度を約12,000人上回る40,751人が参加しており、特に地域での安否確認訓練数が大幅に増加した。 ○避難行動要支援者支援名簿を作成し、自治会・町内会長、民生委員に配布した。
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析	○消防団新入団員数(7名)を、任期満了に伴う退団者数(14名)が上回り、欠員補充のための新入団員の確保が難航したことによる。

今後の方向性	
◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容	○自主防災組織、自治会・町内会と協働して、家具の転倒防止策や食料の備蓄の必要性を啓発していく。 ○災害時の情報伝達・情報共有手段の拡充を図る。
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容	○地元の企業等に積極的に消防団の魅力をPRし、勧誘していく。

SDGsへの貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	レ 13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	レ 17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R2.7.28	記入者職氏名	総務部危機管理監 佐々木 厚
-----	---------	--------	----------------

第7節	防犯・消費生活							
関係所属	危機管理課、市民相談課							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度		
「防犯・消費生活」 所沢市は防犯や消費生活に関する情報提供や相談窓口が整備されている			329	16.1%	275	13.5%		
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
	人口千人あたりの犯罪発生件数 ※令和元年中の刑法犯認知件数に基づき警察が発表した数値		件	8.1	7.8	7.2	○	6.3
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
1-7-1	防犯のまちづくりの推進	自主防犯団体組織数	団体	213	現状値以上	219	○	現状値以上
1-7-1	防犯のまちづくりの推進	「所沢市空き家等の適正管理に関する条例」等による適正管理を指導した空き家の改善・解決率	%	84.7	80	81.1	○	80
1-7-2	防犯体制の充実	ところざわほっとメール(防犯カテゴリ)の利用登録者数	人	14,386	14,500	18,101	○	14,500
1-7-3	健全な消費生活の推進	消費生活相談の解決率	%	98.6	100	97.3	×	100
1-7-4	消費者活動の支援	消費に関する講座・講演会の開催回数	回	11	11	11	○	15
節の基本方針への取り組み状況								
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○青色回転灯装着車によるパトロールを161回実施した。 ○平成23年度から始まったわんわんパトロール登録者数の累計が1,556名に達した(令和元年度中の登録者数は149名)。 ○空き家の適正管理に関する条例に基づき、管理不全空き家の所有者に指導した結果、条例施行以降令和元年度末で83.5%の解決率を達成した。 <p>参考:1-7-2防犯体制の充実「ところざわほっとメール(防犯カテゴリ)の利用登録者数」について、これまでは「防犯情報」のみであったものを、令和元年度中に「防犯情報(不審者・犯罪の発生)」「防犯情報(啓発・注意喚起)」「迷い人のお知らせ」の3カテゴリに分類したことで、利用者が選択登録し易くなり、数値が増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広報ところざわに消費者トラブルに関する特集記事を年間を通じて掲載し、具体的な事例ごとの注意事項などの周知及び啓発に努めた。 ○消費生活相談のうち、60歳以上の方からの相談が約半数であるため、高齢者本人だけでなく、地域包括支援センターや民生委員等の高齢者を見守る方への啓発活動を積極的に行った。 ○消費生活講座及び消費生活展において警察など他の機関と連携して啓発活動を行った。 ○商品の適正表示及び適正計量について、立入検査を行った。 <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>消費生活相談の解決率について、相談者が単に市へ情報提供しただけで処理を望んでおらず、処理不要のものが例年より多くあったためである。</p>								
今後の方向性								
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○犯罪を起させにくいまちづくりのため、自主防犯団体の登録、青色回転灯装着車によるパトロール、わんわんパトロールの推進を行う。 ○空き家等の適正管理について指導を行う。 ○振り込め詐欺などの特殊詐欺防止のため、警察署と連携し、ほっとメールや防災行政無線放送などにより、注意喚起のための情報提供を行う。 ○消費生活相談の件数が増加しているなか、相談に適切な対応を図るため、相談員の資質向上及び市民ニーズに合った相談体制づくりを行っていく。 ○高齢者層に対する講座を開催するとともに、本人だけでなく支援する方に対する講座を開催するなど幅広い消費者トラブルの未然防止に努める。 ○若年者層に対して、消費者として自ら考え判断できる能力を身に付けるため、消費生活講座の開催や啓発を推進していく。 <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>令和元年度は、処理不要の情報提供が多かったことから、消費者から寄せられた情報を広く活用していく。</p>								

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
	3 すべての人に健康と福祉を	レ	12 つくる責任 つかう責任
レ	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も	レ	17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R2.7.28	記入者職氏名	総務部危機管理監 佐々木 厚 市民部市民相談担当参事 高橋 国弘

第8節	交通安全							
関係所属	交通安全課、道路維持課							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度		
「交通安全」 所沢市は交通事故防止に向けた取組が充実している			386	18.9%	328	16.1%		
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
	交通事故(人身事故)発生件数(概数)		件	1,191	現状値未滿	1,020	○	現状値未滿
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
1-8-1	交通安全意識の向上	交通安全教室等の実施回数	回	141	145	147	○	150
1-8-2	放置自転車対策の推進	放置自転車台数	台	38	37	30	○	36
1-8-3	交通環境の整備	カーブミラー新規設置箇所	箇所	27	30	35	○	35
節の基本方針への取り組み状況								
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通ルールの遵守と、交通マナーの向上を図るため、小学校等において交通安全教室を147回、延べ30,533人の参加を得て実施した。 ○市内の放置自転車対策として、駅周辺の自転車利用者に対して、放置自転車を減らすための啓発及び広報活動を実施した。 ○COOL JAPAN FOREST周辺道路整備事業において、交通量が増加すると見込まれる市道2-572号線について、歩行者の安全な歩行空間を確保するため、延長約275mの歩道整備を実施した。 ○カーブミラーを新規に35箇所設置したほか、道路区画線等を設置することにより交通安全対策に努めた。 								
今後の方向性								
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通事故の多い幼児、児童及び高齢者への交通安全教室や街頭での交通安全啓発活動をより多く実施する。 ○放置自転車の台数は前年度に比べて減少している。今後も放置自転車が減少していくよう、駅周辺の自転車利用者に向けての啓発活動や自転車駐車場の周知活動を実施していく。 ○児童、生徒の通学時の安全を確保するため、自治会等から歩道設置の要望書が提出されている通学路の歩道整備を進める。 ○良好な交通環境を確保するため、道路安全施設の整備を進める。特にカーブミラーについては要望も多いことから順次設置を進めていく。 								
SDGsへの貢献								
1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう						
2 飢餓をゼロに		11 住み続けられるまちづくりを						
3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任						
4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を						
5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう						
6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう						
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に						
8 働きがいも経済成長も		17 パートナリーシップで目標を達成しよう						
9 産業と技術革新の基盤を作ろう								
評価日	R2.7.28	記入者職氏名	市民部次長 田中 政美 建設部次長 遠藤 弘樹					